

drum 3.

2. The post exposure apparatus for a photosensitive resin plate according to claim 1, characterized in that the light source 4 is arranged at an outer position distant from the rotating drum 3 and the light source 5 is arranged at an inner position closer to the rotating drum 3.

[Brief Description of the Drawings]

Fig. 1 is a cross-sectional view of an apparatus of the subject application.

Fig. 2 illustrates another example.

1: container main body

2: resin plate

3: rotating drum

4, 5: light source

a: image

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭56-139157

⑬ Int. Cl.

G 03 F 7/20
7/00

識別記号

庁内整理番号

7267-2H

7267-2H

⑭ 公開 昭和56年(1981)10月21日

審査請求 未請求

(全 1 頁)

⑮ 感光性樹脂版用後露光装置

⑯ 実 願 昭55-87278

⑰ 出 願 昭55(1980)3月24日

⑱ 考 案 者 川辻真一

富士市校島2-1 旭化成工業株

式会社内

⑲ 出 願 人 旭化成工業株式会社

大阪市北区堂島浜1丁目2番6

号

⑳ 代 理 人 弁理士 中川周吉

㉑ 実用新案登録請求の範囲

(1) 感光性樹脂版2を巻付固定し得る回転ドラム3を密閉容器本体1内に回転自在に取り付けると共に該回転ドラム3の周りに350~400mmと200~300mmの波長の活性光線を発する光源4、5を夫々配列したことを特徴とした感光性樹脂版用後露光装置。

(2) 回転ドラム3に遠い外側位置に光源4をかつ

近い内側位置に光源5を夫々配列したことを特徴とした実用新案登録請求の範囲第1項記載の感光性樹脂版用後露光装置。

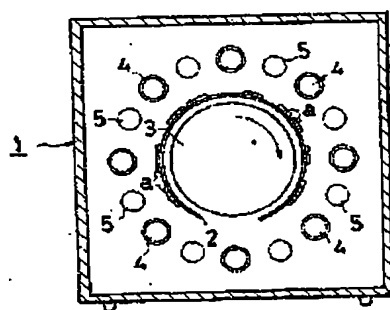
図面の簡単な説明

第1図は本願装置の断面説明図、第2図は他例の説明図である。

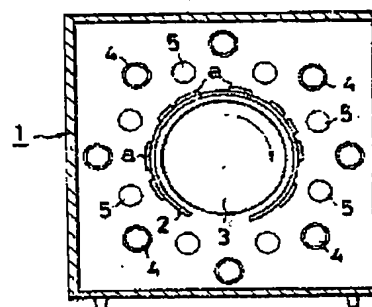
1 ; 容器本体、2 ; 樹脂版、3 ; 回転ドラム、

4、5 ; 光源、a ; 画像。↑

第1図



第2図



正



実用新案登録願(4)

昭和55年3月24日

(4,000円)

特許庁長官 川原能雄 殿

1. 考案の名称

感光性樹脂版用後露光装置

2. 考案者

住所 静岡県富士市般島2-1-1
氏名 旭化成工業株式会社
川辻真一

3. 実用新案登録出願人

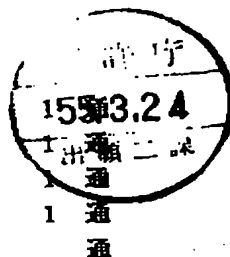
住所 大阪府北区堂島1-2-6
氏名 (003) 旭化成工業株式会社
(国籍) 代表者 河野 謙

4. 代理人

住所 東京都港区西新橋2丁目15番17号
レインボービル8階 Tel 503-0788(代)
氏名 (6678) 弁理士 中川周吉

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 委任状
- (4) 願書副本
- (5)



139157

55 037278

明 細 書

1.〔考案の名称〕

感光性樹脂版用後露光装置

2.〔実用新案登録請求の範囲〕

(1) 感光性樹脂版 2 を巻付固定し得る回転ドラム 3 を密閉容器本体 1 内に回転自在に取り付けると共に該回転ドラム 3 の周りに 350 ～ 400 nm と 200 ～ 300 nm の波長の活性光線を発する光源 4, 5 を夫々配列したことを特徴とした感光性樹脂版用後露光装置。

(2) 回転ドラム 3 に遠い外側位置に光源 4 をかつ近い内側位置に光源 5 を夫々配列したことを特徴とした実用新案登録請求の範囲第 1 項記載の感光性樹脂版用後露光装置。

3. [考案の詳細な説明]

本考案は表面粘着性がなくかつ耐刷性が高い強
靱な感光性樹脂版を単時に得ることが出来る後露
光装置に関するものである。

従来も感光性樹脂版を後露光する装置はあつた
が、この装置は単に360～370nmの活性光線
を発する光源を感光性樹脂版に照射するに過ぎな
い装置であつた為に、これを使用した場合に物性
向上効果はある程度認められるが、樹脂版の表面
粘着性を除去することは出来ず、更に後露光処理
に長時間を要する等の欠点があつた。

本考案は従来の之等の欠点に鑑み開発された全
く新規な技術に係り、特に1回の短時間の後処理
で表面粘着性のないかつ耐刷性の高い強靱な感光
性樹脂版を得ることを可能とした後露光装置に関

するものである。

図により本考案に係る装置の一例を具体的に説明すると、第1図に於て、1は前面に図示せざる開閉扉を有する密閉容器本体であつて、その中央部には画像aを有する感光性樹脂版2を簡単に巻付固定し得る回転ドラム3が図示せざる駆動装置によつて回転し得る如く取付けられている。

更に前述の回転ドラム3の周りには350～400mμの波長の活性光線を発することが出来る多数の螢光灯光源4と200～300mμの波長の殺菌線を発することが出来る低圧水銀灯光源5とが夫々交互に同一円周上に配列されて構成されている。

上記実施例に於ては光源4、5を夫々同一円周上に交互に配列したが、第2図に示す如く、光源

5を回転ドラム3に近い内側に又光源4を回転ドラム3から遠い外側に配列して構成することも当然可能である。

次に本考案に係る装置を利用して樹脂版を具体的に後露光処理した処、次の実施例に示す様な結果が得られた。

実施例

画像露光された未硬化樹脂が洗浄され乾燥された感光性樹脂版2を直径250mm長さ500mmのSUS製の回転ドラム3に固定し、第1図に示す如く、主に370nmの活性光線を発する蛍光灯4と主に254nmの波長の殺菌線を発する低圧水銀灯5により回転ドラムを5rpmの回転速度で6分間後露光処理した所、表面粘着性が全くなく、ショア硬度78°，引張り強度180kg/cm²，伸

び180%の充分にロングラン印刷に耐えることが出来る樹脂版を得ることが出来た。

本考案に係る装置は上述の如く、容器本体内に回転ドラムを回動自在に設けると共にこの回転ドラムに感光性樹脂版を簡単に巻付け固定し得る如く構成し、更にドラムの周りに350~400mμと200~300mμの波長の活性光線を発する2種の光源を夫々配列したので、このドラムに巻付けて回転しながら2種の光線を照射することによつて全体にむらのない均一なかつ表面粘着性のない更に耐刷性の高い強靱な感光性樹脂版を単時間で得ることが出来る等の特徴を有するものである。

4.〔図面の簡単な説明〕

第1図は本願装置の断面説明図、第2図は他例の説明図である。

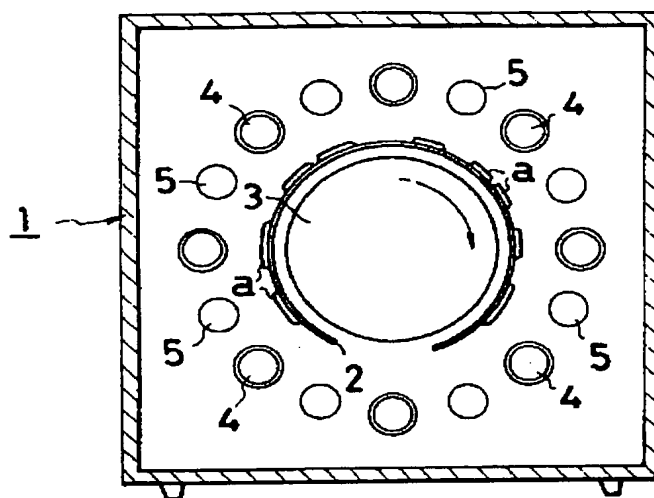
公開実用 昭和56— 139157

1 ; 容器本体、 2 ; 樹脂版、 3 ; 回転ドラム、
4 , 5 ; 光源、 a ; 画像。

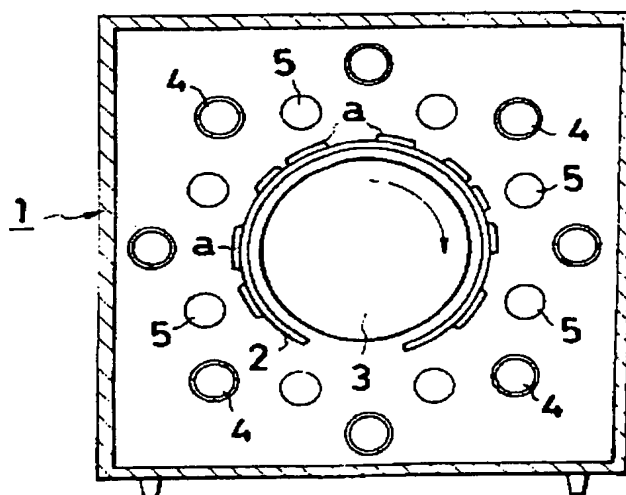
出 願 人 旭化成工業株式会社

代 理 人 弁理士 中 川 周 吉

第 1 図



第 2 図



2015

代理人・弁理士 中 川 周 吉